

🌻 教職員向け夏季研修会開催の報告② 🌻

令和7年8月4日、本校にて「CVPPP（包括的暴力防止プログラム）」の研修を実施しました。CVPPP（読み方：シーブイトリプルピー）は、医療・教育現場において不穏な状態にある方への支援を目的としたプログラムで、安心・安全なケアの実現を目指す理論と技術が体系化されています。

このプログラムは、一般社団法人日本こころの安全とケア学会によって開発・研究されており、精神障害のある当事者の攻撃性へのケアや、アセスメント・マネジメントに関する実践的な知見が蓄積されています。2005年から継続的に理論構築と実践が進められており、当事者中心のケアの在り方を探求する取り組みとして注目されています。

今回の研修は、本校として初めての開催となり、講師には以下の3名の専門家をお迎えしました。

- ・ 下里 誠二 様（信州大学 学術研究院 保健学系教授／日本こころの安全とケア学会 理事長）
- ・ 木下 愛未 様（信州大学 学術研究院 保健学系 助教／同学会 理事）
- ・ 久松 久美子 様（東京都立小児総合医療センター 看護師／同学会 代表会員）

研修では、CVPPPの理論的背景を学ぶ座学に加え、実際に身体を使った演習も行われました。参加者からは、以下のような肯定的な感想が多く寄せられました。

- ・ 実践的な学びの機会：体を動かしながら学ぶことで理解が深まり、支援される側の気持ちを体験的に理解することができました。
- ・ 具体的な身体の使い方：児童に負担をかけずに立たせる方法や、自身の怪我を防ぐ技術など、実践的なテクニックの習得ができました。
- ・ 心理的配慮の重要性：声かけや人権への配慮など、支援される側の尊厳を守る姿勢の大切さを再認識する機会となりました。

今後は、今回の学びを日々の実践に活かすため、以下の点を意識して取り組んでまいります。

- ・ リスクアセスメントの徹底：感情的な対応ではなく、冷静な評価を行い、安全で負担の少ない支援方法を選択します。
- ・ 身体技術の活用：座り込みや誘導などの場面で、研修で学んだ身体の使い方を実践します。
- ・ 心理的配慮と言葉がけ：児童の気持ちに寄り添う声かけを意識し、不安を和らげる支援を行います。
- ・ 支援の質の向上：支援される側の立場を想像し、柔軟な対応を心がけます。
- ・ 人権の尊重と周囲への配慮：児童の尊厳を守り、周囲に配慮した支援を行います。
- ・ 継続的な学びの定着：日常的にイメージトレーニングや職員間の確認を行い、知識と技術の定着を図ります。

今回の研修は、児童・生徒へのより良い支援の在り方を考える貴重な機会となりました。今後も、安心・安全な教育環境の実現に向けて、学びを深めてまいります。

